

〈報告〉

# スコットランド・コーデン城日本庭園の成立について

福原成雄

## はじめに

2013年8月31日、英国スコットランド日本庭園協会主催による日本庭園作庭ワークショップをブリッジアーロンのローズマリー邸で行った。

その時に、ローズマリーの案内で、ドラのロバート卿邸、ドラミュージアム、コーデン城日本庭園を訪問した。

(写真-1.2参照)

スコットランド・コーデン城日本庭園の成立を明らかにするために平成25年9月1日、平成26年2月26日～3月2日の5日間コーデンに滞在して聞き取り調査、資料収集、コーデン城日本庭園現場調査を行った。

聞き取り調査は庭園の持主であるロバート・スチュワート卿、娘さんのサラ嬢に行った。資料収集は文献資料、写真、図面等で、ドラミュージアム資料、ロバート・スチュワート卿所持の古写真である。

文献資料は、『ジル・ラギット博士調査報告書』ジル・ラギット(2007年) 平野エバンス智美翻訳(2008年)、『世界漫遊旅行者と庭園 - エラ・クリスティの日本旅行とコーデン城の日本庭園 -』橋セツ(2008年12月) 『園芸家半田たきの明治後期の英国留学—家族史とライフヒストリー/ライフジオグラフィーの視点から』—星珠枝、橋セツ(2011年12月)である。

特に半田たきの『想ひ出の記』の工事記録は貴重で、日本庭園成立の大きな参考となった。スコットランド・コーデン城日本庭園作庭内容を明らかにし、庭園の成り立ちについて考察を行うものである。

(図-1.2.3.4参照)



図-1 コーデン城日本庭園位置図



図-2 コーデン城日本庭園位置図



図-3 コーデン城日本庭園位置図



写真-1 ドラ・ミュージアム入口



図-4 コーデン城日本庭園現況平面図



写真-2 ドラ・ミュージアムにて資料閲覧

## 1. コーデン城日本庭園との出会い

ロバート卿宅は周囲が牧草地で、城らしきものは無く、和かな老夫婦に迎えられ、案内された室内で、コーデン城日本庭園の古い写真、様々な資料を見せていただいた。

ロバート卿のお話によって、コーデン城日本庭園は、1907年 エラ・クリスティ嬢が日本を訪れ、その時の思い出を表すために、敷地内に日本庭園を作りたいと熱望し、英国在住の日本人設計者を探され、園芸学校に留学中の日本人女性半田たきに設計、施工を依頼して作庭が進められ、その後、鈴木慈作、マツオシンザブロウが関わり、作庭が続けられた。

コーデン城日本庭園が、エラ・クリスティ、半田たき、鈴木慈作、マツオシンザブロウが関わって作庭されたことが分かった。(写真-3参照)



写真-3 半田たき、マツオシンザブロウ

### 1) コーデン城日本庭園作庭者について

#### 1) -1 エラ・クリスティ(1867-1944)の略歴

1865年 炭鉱経営で成功した父親ジョン・クリスティーは

コーデン城の土地を購入した。

1902にジョン・クリスティーが亡くなると生涯独身であったエラ・クリスティが後を引き継いだ。

ロバート卿は、エラ・クリスティの妹アリスの子供である。

### 1) -2 半田たき(1871-1956)の略歴

1871年(明治4年)久留米で生まれる。

1892年(明治25年)同志社女学校入学

1895年(明治28年)同志社女学校卒業

香蘭女学校教師

1900年(明治33年)同志社女学校教師

1906年8(明治39年)～1908年(明治40年)英国女子農業、園芸学校スタットレー・カレッジ留学(37歳)

1909年(明治41年)同志社女学校復職

1910年(明治43年)中目成一と結婚

1919年(大正8年)同志社女学校退職

1956年(昭和31年)岩手県水沢で亡くなる。(87歳)

### 1) -3 鈴木慈什(1837-1937)の略歴

1873年(明治6年)名古屋市で生まれる。

1910年(明治43年)訪英

1916年(大正5年)ロンドン在住

1922年(大正11年)ロンドン、クラブ通り在住

1930年(昭和5年)王立キューガーデンのパーティに出席。

1937年(昭和12年)ロンドンで亡くなる。ヘンドン墓地に埋葬(60歳)。

### 1) -4 マツオシザブロウの略歴

出生地不明

1925年(大正14年)鈴木慈什の紹介でコーデン城日本庭園の庭師として雇用される。

1937年(昭和12年)コーデンで亡くなり、エラ・クリスティの傍らに埋葬される。

## 2. コーデン城日本庭園調査

### コーデン城日本庭園を訪ねて

当初は、ジョサイアコンドルの本を参考にして島、築山の地

割、建物、橋、灯籠等のデザイン、配置が行われたようである。

ドラ・ミュージアムから車で5分、左手に牧草地の丘陵地を眺めながら曲りくねった細い道を登り、右手に石垣で囲まれた樹林地を抜け広大な牧草地が広がる敷地の簡素な入口に到着。

牧草地から樹林地に続く道を歩き、しばらくすると目の前の谷間に美しい池が眺められ、池は東側に土手を築いて丘陵地からの水を堰き止めて出来上がっていた。池の周りにはシャクナゲが生茂り、日本庭園はスコットランド・ハイランドの風景の中に解込まれていた。(写真-4参照)

庭園はロンドン在住の澤野多可史のご尽力でスコットランド歴史協会の重要文化財として記録された。



写真-4 現況視察 池岸に佇むロバート卿

2013年9月ロバート卿の娘サラ嬢から連絡があり、修復に関して相談したいと連絡があり、2014年1月に仲間と共に本格的な復元調査を行うことになった。

### 1) 調査日程

2014年1月26日(日)

福原、アンジェラ、松川、菱井 Ochil Cottage 到着

2014年1月27日(月)

午前:日本庭園復元内容打合せ

ロバート・スチュワート卿、サラ嬢

午後:現場視察

2014年1月28日(火)

コーデン城視察、日本庭園現場にて復元調査

2014年1月29日(水)

燈籠、飛石確認、水鉢確認等現場調査

2014年1月30日(木)

午前中:現場調査中島、築山確認

2014年1月31日(金)

午前中:墓参り、復元内容図面作成

午後:復元内容打合せ

## 2)調査者

福原成雄 大阪芸術大学環境デザイン学科

Angela Davies アンジェラ デービス

松川純也 NPO緑の蝶々

菱井愛 環境デザイン学科卒業生

## 3)調査内容 2014年1月27日(月)

日本庭園復元調査内容打合せ、聞き取り調査、現場視察  
(写真-5.6.7.8.9.10参照)



写真-7 調査図面作成庭園設計図作成

## 4)調査内容 2014年1月28日(火)

日本庭園現場にて復元調査

### 4)-1 コーデン城跡地確認



写真-8 コーデン城跡



写真-5 聞き取り調査

### 4)-2 池護岸の確認



写真-6 北西側平庭現況写真



写真-9 北東側護岸の確認

#### 4)-3 反橋が架けられていた位置の確認



写真-10 北側から池中央中島を見る

### 3. 作庭資料の収集整理と考察

コーデン城日本庭園復元整備内容を検討するために、文献資料『ジル・ラギット博士調査報告書(2007年)』、『世界漫遊旅行者と庭園-エラ・クリステイの日本旅行とコウデン城の日本庭園-』橋セツ(2008年12月)、『園芸家半田たきの明治後期の英国留学—家族史とライフヒストリー/ライフジオグラフィーの視点から-』星珠枝、橋セツ(2011年12月)、『想ひ出の記』半田たきを基に庭園が作られた年代順に作庭内容を整理し明らかにした。

#### 1) 1906年10月

内容:半田たき(37歳)英国留学、英国到着。

スタッドレー・カレッジで園芸を学び始める。

#### 2) 1907年4月5月

エラ・クリステイ日本旅行日本庭園に出会ったことがきっかけ。

「デントン先生の手紙に、スコットランドに行って、クリステイ嬢を助けてあげよとのこと、同嬢より日本式庭園を作りたいから援助を依頼する通信を受けた。」半田たき『想ひ出の記』

#### 3) 1908年1月28日~

第1回 半田たきコーデン城日本庭園作庭現地調査打合せを行う

「……クリステイ嬢に面会し庭についての希望を聞き、地形と広さを見て概略の見取図描いて数日滞在し、……」

「……我国の眺望に似たるものある様に思われ、美しい景色である。異なるものは丘陵などに樹木なく、牧草青々と羊群が點々と草を食みつつあることである。……」

「帰校し……勉強をしながら隙をみては、築庭の構想を練り見取図の中に入れて書き入れて略出来上がった。敷地の広さは約二エーカー(約8,000㎡)築山と平庭の二部に分かれた。……」

「……中央に鴨寄の池あり。傍らにボートハウスもある。この池の一方東側には池を掘ったときの土かと思はるる自然の坂がある。平坦地と坂地の境には池に導かれて小溪がある。一丈(3m)あまりの段階をなして自然の滝を形成している処あり。是等を皆利用して築庭せんと試みた。……」

『思ひ出の記』 半田たき39歳

#### 4) 1908年4月23日~

第二回 庭園着工、見取り図と比べあわせる。

「兩三日の間は池辺に出て見取図と較べ合はして、愈々確信を得て作業に取りかかる。……」

……先ず三人の夫夫来る。……

……クリステイ嬢は何とかして橋をかけたいとの注文である。

依って池の辺に溝を掘りて中島を作り、其の土を中島の築山をこしらへ、溝のしがらみを中ころの石にて石垣の様に積み、其の溝に橋をかけて中島に渡る様にしたのを嬢は大いに喜ばれた。……

……中島には石を数カ所に据え、石の傍らにツツジ、ツゲ、シャクナゲの如きものを植え芝生を以て地面を被い、一寸面白き景が出来揚った。……

坂地には大小の築山を作り、庭石を据え、中島の植木と同様のものを植込み、粉引白の古き石を組み立て、石灯笼の形を現したりする度に、変り行く庭の面を見ては狂喜せられ夫どもも驚きを以て眺め賞賛の言葉を放ち、大いに興味を以て能く働いてくれた。然し其の指揮は実に難しかった。

屢々自分で鋏を取って形を直さなければならなかった。彼等はピラミッドの如き三角を造り、四角形にしたりするので、角を

除きてなだらかにするには矢張自分の手を要した。

英国では日本庭園と云えば只鳥居を立て、石灯笼を据えるのみである。

……作業中湿っぽい日が多いので難儀したが、人夫等は勤勉にて雨中にても正直に能く働くのには感心した。

……朝の八時より午後五時と云う約束であった。……

……春休暇の三週間にては到底竣工難しかったから、………』『思ひ出の記』

## 5) 1908年8月初旬～

### 第三回

「……春中止していた仕事を続けたが、国元より帰国を促がしてくるので、八部通り終わった頃には石灯笼の据え場所などを図中に示して置いて、残念ながら別れを告ぐることになった。

灯笼をロンドンにて探しても、望み通りのものもなく、遂に日本へ注文を出してあるが未着であった。……』『思ひ出の記』

灯笼は、発送資料により下記の三基の灯笼が京都から送られている。

春日灯笼(大) 1808年 奈良

春日灯笼(小) 1823年 京都

雪見灯笼 1778年 奈良

数年後

「……帰国後数年後であった。

……或未知の紳士より一通の書翰を受けた。

名古屋のある築庭家にてロンドンに出張中、クリスティ嬢の依頼により、私が考案した日本式築庭を視察したと云う批判の書であった。……

……唯一ヶ所変更した、即雪見灯笼の据え處を湖岸より水中に移したのみにて、他は訂正する處なかつたとのことであった。実は自分から法式に叶へるか何うかも考へず、築庭書を検べて後は、感じにまかせて築きしのみにて、築庭家の如き人に見られては恥ずかしき次第に思つて居たのに、斯る批判を受け、恥入ながらも嬉しくもあつた。』『想ひ出の記』

## 6) 1909年

池中島に二つの反橋(木橋)が設置される。(古写真より確認)

## 7) 1910年頃

門(茅葺)、水鉢、飛石が設置され、植栽も行われている。(古写真より確認)

作庭家鈴木慈什によって雪見灯笼の据え換え指示が行われる。(古写真より確認)

新たな雪見灯笼が平庭護岸近くに据えられた。

(古写真より確認)

「日本庭園は、`Shan-rak-uen`と命名され、湖につながる日本風の野趣のある門に名前が示された。エラは、`Shan-rak-uen`とは、「愉しみと喜びの場所」`a place of pleasure and delight`だと説明を受けた。」文献資料より

## 8) 1925年

庭師マツオシンザブロウ(44歳?)が庭園の維持管理で雇用される。文献資料より

作庭家鈴木慈什は、定期的に訪問し植栽に関する剪定の助言を行った。文献資料より

## 9) 1933年1月7日～24日

作庭家鈴木慈什による中島のデザインにより、南側反橋が八つ橋に付け換えられ、同時に地中に石組が行われる。

スケッチには中島に鳥居、稲荷神社(二つの狐)、四阿が描かれている。文献資料、スケッチより

## 10) 1937年

メアリー女王日本庭園訪問

## 11) 1937年

鈴木慈什死去(64歳)、松尾シンザブロウ死去(56歳?)

## 12) 1949年

エラ・クリスティ嬢死去(88歳)

## 13) 1955年

庭園は、この年一般公開された。

## 14) 1956年

中目(旧姓半田)たき死去(85歳)

## 15) 1960年

バンダリズムによって茶室、橋、神社、灯笼等が破壊された。

## 16) 1992年

ロバート・スチュワート卿によって復元運動がされたが実現

されなかった。

#### 17) 1998年7月22日

「この庭園には池とその淵にいくらかある石組のほかは殆ど残っていない。灯籠の基礎が少々と、葺き屋根の門の跡のほか、稲荷神社の名残りが残るばかりである。稲荷神社については、残ったわずかな一部がそれが朱に塗られていたことを示している。」

(Raggett, 1998年7月22日)

#### 18) 2013年8月31日

福原、アンジェラ、松川、ローズマリー、堀川

ロバート・スチュワート卿宅訪問。

ドラ・ミュージアム訪問。コーデン城日本庭園跡見学。

門跡、春日灯籠基礎、傘、雪見灯籠中台、傘、稲荷神社跡、地中石組等を実見。

樹木が生茂り護岸、築山、石組、飛石も確認出来なかった。

#### 19) 2014年1月26日～2月2日

コーデン城日本庭園復元調査 ロバート・スチュワート卿、サラ嬢、福原、アンジェラ、松川、菱井

日本庭園復元調査内容打合せ、現場視察

日本庭園現場にて復元調査、コーデン城視察、灯籠、飛石確認、水鉢確認等現場調査、現場調査中島、築山確認、墓参り、復元内容図面作成、復元内容確認打合せ。

### 4. コーデン城日本庭園作庭時期における作庭内容の考察

コーデン城日本庭園作庭内容は、ドラ・ミュージアム資料、『ジル・ラギット博士調査報告書(2007年)』、『園芸家半田たきの明治後期の英国留学—家族史とライフヒストリー/ライフジオグラフィ—の視点から— 星珠枝、橘セツ(2011年12月)』、半田たきの『想ひ出の記』、ロバート・スチュワート卿所蔵古写真、復元調査、ロバート・スチュワート卿聞き取り調査により工事時期、内容を明らかにした。

#### 1) 第一期 1908年

半田たきにより日本庭園のデザインが行われ、作庭が行わ

れている。

西側中島整備、中島築山造成、坂地築山造成、平庭造成、中島護岸整備、中島石組、西側中島木橋設置、西側中島植栽工事、坂地築山石組、平庭寄せ灯籠設置、春日灯籠二基、雪見灯籠一基配置指示。

#### 2) 第二期 1909年～

エラ・クリステイ嬢によってその後のデザイン、作庭が行われている。

池中央中島整備、池中央に木橋反橋二橋設置、門設置、飛石設置、水鉢設置、四阿設置、植栽工事。

#### 3) 1910年～1937年

鈴木慈什により変更、追加デザイン、作庭が行われている。

雪見燈籠の変更配置指示、池中央中島にかかる木橋変更、八橋設置、八橋周りの池内石組、稲荷神社設置、鳥居設置、南西側平庭整備(飛石設置、水鉢設置、灯籠設置、植栽工事)。

#### 4) 第三期 1925年～1937年

マツオシンザブロウによって維持管理(12年間)が行われる。

鈴木慈什による変更整備作業、植栽管理等。

※メアリー女王が日本庭園を訪問された1937年頃が、特に完成された日本庭園であったと考えられる。

#### 5) 第五期 1937年～1949年

エラ・クリステイ嬢によって追加デザイン、植栽管理指示、庭園施設維持管理指示が行われた。

#### 6) 第六期 1949年～

現在までロバート・スチュワート卿によって庭園樹木、庭園施設維持管理指示、中島にかかる木橋設置が行われて来た。

### 5. コーデン城日本庭園古写真による庭園施設の分析

(写真-11.12.13.14.15.16.17.18.19.20.21. 22.23.24.25.26参照)

#### 1) 1910年当時の写真

池、池中央中島、門、反橋二橋、飛石、植栽の姿を確認することが出来る。



写真-11 北側から中島全景

## 2) 1910年当時の写真

池、池護岸石組、池台石上の雪見灯籠、反橋の姿を確認することが出来る。灯籠の中台が逆さまに据えられている。



写真-12 西側の流れから池部分

## 3) 1910年当時の写真

池中島護岸、池中央中島に架かる反橋、橋脚の姿を確認することが出来る。



写真-13 池中島にかかる反橋(木橋)

## 4) 1910年頃当時の写真

南西側平庭、石組、春日灯籠、飛石、雪見灯籠、植栽、対岸の寄せ灯籠、門の姿を確認出来る。



写真-14 南西側平庭部分全景

## 5) 1910年頃当時の写真

南西側平庭、水鉢周り、雪見灯籠、石組、飛石の詳細が確認出来る。



写真-15 南西側平庭部分詳細

## 6) 1910年頃当時の写真

西側中島、北西側平庭 木橋、護岸、飛石、寄せ灯籠、植栽の姿が確認出来る。



写真-16 西側中島から西側平庭



### 7) 1910年頃の写真

西側中島、北西側平庭、護岸石組、雪見灯籠、植栽の姿を確認出来る。



写真-17 西側平庭と中島

### 8) 1910年頃の写真

南西側平庭、護岸石組、雪見灯籠、対岸富士山、サマーハウスの姿が確認出来る。



写真-18 南西側平庭から北側の富士山全景

### 9) 1926年当時の写真

北西側平庭で作業をするマツオシンザブロウ  
飛石、砂利敷き園路、植栽の姿が確認出来る。



写真-19 北西側平庭

### 10) 1925年当時の写真

池中央中島 反橋、四阿、植栽を確認出来る。



写真-20 富士山から池中央中島全景

### 11) 1930年当時の写真

池中央中島 ボートハウス、反橋、水辺植栽を確認出来る。



写真-21 東側から池中央中島全景

### 12) 1931年当時の写真

坂地 富士山、植栽の姿が確認出来る



写真-22 富士山全景

### 13) 1931年当時の写真

池中石組 雪見灯籠(中台が据え直されている)、池中央中島、四阿、ボートハウスの姿を確認出来る。



写真-23 西側台石上の雪見灯籠

### 14) 1931年当時の写真

西側中島の姿を確認出来る。



写真-24 西側中島から北西側平庭全景

### 15) 1931年当時の写真

池中石組 雪見灯籠、対岸の北西側平庭の姿を確認出来る。北側から池中央中島に架かる反橋、対岸の植栽を確認出来る。



写真-25 西側台石上の雪見灯籠

### 16) 1955年当時の写真

八橋、池中石組、池中央中島に架かる反橋、中島、対岸の植栽の姿を確認出来る。



写真-26 南側から池石組、八橋、中島全景

## 6. 古写真と現在の状況を比較考察

2) 木橋、西側中島から平庭に架けられていた木橋の位置を確認  
(写真-27.28.29.30.31.32.33.34.35.36 参照)



写真-27 中島に架けられた木橋



写真-28 2014年1月ほぼ同じ位置で撮影

### 3) 木橋 西側中島から池中央中島を古写真と比較



写真-29 岬から中島の雪見燈籠を見る



写真-30 2014年1月ほぼ同じ位置で撮影

### 4) 雪見灯籠 古写真と現況を比較



写真-31 雪見灯籠設置状況を確認



写真-32 2014年1月ほぼ同じ位置で撮影

### 7) 西側岬の位置 古写真と現況を比較



写真-33 半田たきが作庭した北西側岬部分

1933年撮影の岬部分の状況を確認



写真-34 2014年1月ほぼ同じ位置で撮影

### 9) 北西側平庭 古写真と現況を比較

半田たきがデザインし作庭した北西側平庭で、1926年に維持管理作業をするマツオシンザブrowの姿、平庭の様子が良く分かる。飛石の回りの砂利敷き、玉石の縁石、緩やかな曲線の芝生地、石組。春日灯籠は後年移動されたと考えられる。



写真-35 1926年撮影の平庭に立つマツオシンザブロウ



写真-38 竿の長さ770mm、直径260mm 基礎の直径520mm



写真-36 2014年1月ほぼ同じ位置で撮影

半田たきが指示した場所とは違っている(古写真より)  
中台、火袋、宝珠が無くなり、基礎、竿、笠だけが現存している。



写真-39 笠の直径550mm

## 7. 灯籠、飛石、水鉢、小溪等確認現場調査 (写真-37.38.39.40.41.42.43.44.45.46.47.48.49.50参照)

### 1) 灯籠確認

半田たきがデザインし作庭した北西側平庭

半田たきが据えた粉引き白を笠に見立てた寄せ灯籠を確認。



写真-37 寄せ灯籠確認 笠直径1,365mm

### 2) 春日灯籠

半田たきが京都に注文し北西側平庭に配置指示した春日灯籠。

### 3) 飛石確認

半田たきがデザインし作庭した北西側平庭の飛石確認



写真-40 北西側平庭 飛石発掘 位置、埋没状況の確認

#### 4) 園路石敷の確認

北側坂地と北西側平庭との間の園路



写真-41 園路幅1m 埋没厚15cm

#### 5) 西側中島の確認

半田たきがデザインし作庭した中島を確認



写真-42 中島、石組

#### 6) 南西側平庭確認



写真-43 水鉢を発掘、春日灯籠の位置を確認  
直径460mm、穴直径245mm

#### 7) 雪見灯籠確認

半田たきが京都に注文し北西側平庭に配置指示した雪見灯籠。



写真-44 笠上部 直径780mm



写真-46 笠下部厚さ120mm



写真-45 中台上部515mm



写真-46 中台下部厚さ130mm

脚、火袋、宝珠が無くなり、中台、笠だけが現存している。  
古写真では雪見燈籠が二種類存在し、半田たきが京都に注文した燈籠が不明である。

#### 8) 南西側平庭の春日灯籠確認

半田たきが京都に注文し北西側平庭に配置指示した春日灯籠。



写真-47 基礎上部直径450mm



写真-48 基礎側面厚さ190mm



写真-49 笠上部直径510mm 厚さ175mm

半田たきが指示した場所とは違っている(古写真より)  
竿、中台、火袋、宝珠が無くなり、基礎、笠だけが現存している。

## 9) 小溪の確認

「……平坦地と坂地の境には池に導かれて小溪がある。  
一丈(3m) あまりの段階をなして自然の滝を形成している処あり。  
是等を皆利用して築庭せんと試みた。……」『思ひ出の記』 半田たき



写真-50 西側小溪の流れ確認

## おわりに

今回の調査でコーデン城日本庭園は、イギリス人エラ・クリスティの日本への思いが三人の日本人によって形作られた事が分かった。

今回の調査の際に、エラ・クリスティの墓参りに訪れ、エラ・クリスティが眠る墓の横に今もマツオシンザブロウがひっそりと眠っている。亡くなるまで日本庭園を維持管理したマツオシンザブロウとエラ嬢の信頼関係が伺え、この庭園に対する思いも大きなものだったと感じ取る事ができた。

(写真-51.52 参照)

コーデン城日本庭園調査復元の意義は、理想の庭園を目指した彼らの思いを受け継ぎ、その日本庭園の姿を甦らせる事で、更なるイギリスと日本との強い友好の証となるであろう。

庭園調査を継続しつつ、多くのイギリスと日本の人々の協力

によって復元作業を行っている。次回その内容を報告出来る事を願っている。



写真-51 エラ・クリスティが眠る墓地



写真-52 エラ・クリスティの傍らで眠るマツオシンザブロウ

## 参考文献

- (1)『世界漫遊旅行者と庭園 —エラ・クリスティの日本旅行とコーデン城の日本庭園—』橋セツ(2008年12月) 神戸山手大学紀要10号
- (2)『園芸家半田たきの明治後期の英国留学—家族史とライフストーリー/ライフジオグラフィーの視点から』星珠枝、橋セツ(2011年12月) 神戸山手大学紀要13号
- (3)『想ひ出の記』中目たき協栄新聞社出版局
- (4)Handa Taki (1871-1956)』  
JILL RAGGETT, YUKA KAJIHARA-NOLAN AND JASON NOLAN  
BRITAIN & JAPAN: BIOGRAPHICAL PORTRAITS VOLUME VIII
- (5)『ジル・ラギット博士調査報告書』(2007年)ジル・ラギット  
平野エバンス智美翻訳(2008年)